

会 報

2006年12月25日 No. 1

ニチメン東京社友会

東京都港区赤坂 2 - 14 - 7
双日(株)内 17F

【目 次】

【ページ】

1. ニチメン社友会発足	河西会長御挨拶	2
2. 社友会発足祝辞	双日(株)石原常務	3
3. 『縁の下の力持ち十一人衆』	倉又代表世話人	4
4. 最長老会員の御挨拶	濱 田 雄 三	5
5. 7月13日社友会設立総会・懇親会開催報告		7

—— 会員の動静 ——

6. 《OB会の紹介》	8		
① ニチメン東京化工OB会	② ニチメン機友会		
③ ニチメン・チームズ会	④ 大33会		
⑤ ニチメン木材ネシア会	⑥ NSK（ニチメン総合建材）OB会		
⑦ 食料OB会			
7. 《同好会の紹介》	15		
① 長月棋楽会	② ザル碁の集まり	③ 囲碁部	④ ニチメン湘南会ゴルフ
⑤ 一木ゴルフ会	⑥ ニチメン化工OBゴルフ会		
⑦ 俳句の会“いろは句会”	⑧ 三火会ゴルフ		
8. 《2006年11月末社友会収支報告書》	22		
9. 《会 則》	23		
10. 《2006年度事業計画》	24		
11. 《役員・世話人》	25		
12. 《世話人連絡表》	25		
13. 《双日(株)担当者》	25		
14. 《OBルーム使用規則》	26		
15. 《訃報》；弔事に関する細則	27		
編集後記	28		

ニチメン社友会設立のご挨拶

会 長 河 西 郁 夫

去る7月13日、如水会館での設立総会には、皆様ご多忙中のところ234人もの多数のニチメンOB、OGの方々のご列席を頂き、盛大な東京社友会の設立総会を開催する事が出来ました。誠に慶賀にたえない所で、改めて厚くお礼申し上げます。双日さんの社長、役員、関係社員の方々にもご列席頂き、特に土橋社長には当日の朝海外出張先からお帰りになったばかりのお忙しい所をご来場頂き、ご祝辞を頂きました。

思えばニチメン長月会が解散してから今年で5年が経過した訳ですが、その間、OB、OGの皆様には昔のニチメンの本部単位などで色々の会合があり、活発にご連絡を取り合って懇親を深めてこられた訳でございます。

しかしながら創業明治25年。長い歴史と輝かしい伝統があり、戦前戦後の日本経済の発展に大きな貢献をしたニチメンという会社全体の同窓会が無いというのはいかにも残念で、何とかしてもう一度ニチメン全体の会を結成してはどうかーとの声が各方面で聞かれる様な状況でした。そこで今年の初めでしたが私共有志でこの件について話し合い、双日さんにもお話しした所「双日としても、それは非常に結構な事で出来るだけ支援する用意はある」とのお話がありました。そこで今春、まず在京OB、OGの方々にアンケートを郵送し「『ニチメン東京社友会』の設立に賛成可否か？」につきご意見をお聞きした所、その結果、約750名の方々から賛成ー「会員になる」とのご返事を頂きました。それから私共は本格的に本会結成に向けて準備会を作り、必要な具体的作業を推進した次第でした。

それから今日まで約半年、色々と問題はございましたが、約15名位の有志の並々ならぬご努力により、7月13日の設立総会開催となった次第でございます。その間これらの方々には手弁当のボランティアで、大変なご苦労頂いた事で、その大部分の方には現在も世話人のメンバーとしてこの会の運営をお願いしておりますが、これまでのご尽力に敬意を表し、改めて厚くおれいを申し上げたいと思います。双日さんにも大変なご支援を頂きました。多くの双日の方々からのご支援でこの会がスタートできたのでありますが、特に土橋社長、半林顧問、石原常務には格別のご支援を頂きました。厚くお礼申し上げます。

既にご理解頂いております様に、設立総会に於いてこの会の会則、会計規則、事務所使用規則、予算、事業計画など必要な規則、計画は承認頂いており、役員も決まりました。事務所は双日さんのご好意で赤坂本社の東館17階に設営済みであり、既に会の運営は万事順調に進んでおります。本会としてはこれから内容を充実し、事業計画、予算に基づき各種業務を進め、会員皆様のお役にたつ様ー会員による、会員のための社友会として末長く発展していく様に最善の努力を尽くしたいと念願しております。

皆様のご協力により、9月末現在で会員の総数は570名になっており、本会としては当面、これらの会員の人事情報の連絡、名簿の作成、慶弔の把握のほか、会報の編集、ホームページ作成、同好会の支援などを主な仕事としております。ご存知の様に以前の長月会はニチメン直属のニチメンによる同窓会でありましたが、本会は長月会とは違い、独立の組織で自主、自立が基本方針です。そして基本方針は会則に明示されてある通りで、日々の運営は会員の代表である世話人により行われ、その経費は会員の皆様から拠出された年会費によって賄うものであります。

したがってこの会はすべて会員の方々のご理解とご協力によって成立つものであり、この点、今後の会員の皆様の格別なご支援を重ねてお願い致したく存じます。

最後になりますが、この会の今後の発展と会員の皆様の一層のご健勝を祈念して私のご挨拶とさせていただきます。

以 上

ニチメン東京社友会会報発刊に際し

ニチメン東京社友会副会長
双日株式会社常務執行役員
石 原 啓 資

東京社友会の会報が発刊される事、心からお祝い申し上げます。

本年7月13日如水会館にて、ニチメン東京社友会の第一回総会が開催され、盛大に親睦会が開催されたことは、記憶に新たなところですよ。数多くの諸先輩の方々にお目に掛かれ、お元気な先輩の皆様方のお姿を拝見し、ニチメンの歴史を強く感じました。また、若かりし頃を思い出し懐かしかった次第です。

昨年4月、人事総務担当役員の任を受け中国から帰任いたしました。私はニチメン最後の中国代表として赴任し、中国の組織の統合を陣頭指揮で行い、双日の初代中国総代表として新たな組織の門出の基盤作りを行いましたので、その間、日本で何が起きているのか全く分からぬ状態でした。帰国後、ニチメンのOB会組織であった長月会が解散され、ニチメンのOB会の組織が無いことを知りました。日商岩井のOB会は自主運営にて継続されており、ニチメンのOB会組織を新たに作ることを西村特別顧問から提案受け、土橋社長のご許可を頂き実現にむかい作業に入った次第です。

実態調査を行った結果、既に出身本部、駐在赴任地域、現在お住まいの地域等々を要に同窓会が多々運営されていることを知り、一体感を持って親睦を深めて頂いていることは喜ばしい限りです。然し、会社つまり双日との接点が無く、何等かの形でニチメンのOBの方々幅広く絆を維持出来、会社の状態を知って頂き、互いに情報を共有する組織体をと思案していました。前提は日商岩井と同じ自主運営及び無配の状態である会社故、財政面での支援が出来ぬこと等々考えると難しい局面でした。

昨今の頃かと思いますが、化工OB会に参加し、小職の思いをお話させて頂きました。ご出席されていた濱田雄三様が「内容を詳しく聞かせて欲しい」と仰せられ、ご説明申し上げました。本年1月4日付のお手紙を濱田雄三様から頂戴し、河西郁夫様から「ニチメンOB会（長月会）復活の手続きをどうすればよいのか、双日のどのセクション或いは誰に連絡すれば良いのか」確認の申入れを受けました。早速、河西郁夫様に連絡を取らせて頂き、2月に有志の方々に双日の会議室に集合願い、日商岩井の自主運営の内容及び双日の考え方等々ご説明申し上げ、主旨を充分ご理解願い、OB会設立準備委員会が発足されました。その後、大変なご苦労があったと推測されますが、短期間の間に数多くのOBの方々のご意向を確認して頂き、ニチメン東京社友会が発足出来たことに、関係者の皆様方のご尽力に本当に頭の下がる思いです。

ニチメン東京社友会を継続させ、双日とOBの方々の絆に致したく小職も頑張って参りたいと意思を強くしています。

さて、双日の会社の状況ですが、2004年4月1日に合併し、「双日」としてスタート致しましたことは申し上げるまでもありません。本年度に入り合併後3年目を迎え、当初の3年中期計画を本年3月末にて一年前倒して達成を致しました。

本年から新たに中期計画を作成し、「NEW STAGE 2008」のスローガンのもと、双日の新たな発展の基盤を作り、輝かしい未来に向けて飛び立とうとの意思表示であり、実行する決意を示した次第です。

10月末に公表しますが、本年度上期決算も予算及び前年同期実績超過達成も視野に入ってきました。業績拡大及び中期計画の超過達成に社員全員総力で取り組んでおります。

OBの皆様から引き継いだ110年以上育んできたDNAを大切に継承し、双日の発展に繋げたいとの思いを再

認識しております。

現在、無配を継続しており、株主様からはご批判を頂き、株式をお持ちのOBの方々には大変なご迷惑をお掛けしておりますが、何としても今期（2007年3月期）には晴れて復配をするとの覚悟の上、経営を行っております。

双日としてはまだよちよち歩きの状態かもしれませんが、一步一步まともな企業に向かって歩みだしました。誠実な気持ちを持って開かれた社風と情熱を目指し、自己制御機能を持ち合わせた普通の会社を作り上げて参ります。

OBの方々のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に季節の変わり目で朝晩冷え込んで参りましたが、お体に充分注意して頂き、お元気でお過ごし下さい。

以 上

緑の下の方持ち11人衆

世話人代表 倉 又 則 夫

ニチメン長月会が二年間の休止期間を経て完全解散となって更に二年、母体であるニチメンが発展的とは云え消滅した事でOBの皆様の紐帯、或いは帰属感が徐々に薄れて行くことに寂しさを感じるとの声が高まって来ておりました。他方、旧本部、部課海外店その他種々単位をベースにしたOB会で旧交を温める機会は随所、随時持たれており、それで十分だ、完全解散し、資産処分迄した長月会を今更復活する意味が無い、第一やると云っても会社が無くなった今誰がどうやって会を立ち上げ運営するのだ、無理な話だと云う声も多く聞かれたことも事実です。

その様な機運の折、OB会活動を継続する旧日商岩井とのバランスも考える双日(株)のニチメン出身経営陣から現当会会長河西さん他長老のもとにOB会を設立するなら相応のサポートを惜しまぬ、但し会員に依る自主運営、自主財源を旨とし、会社は事務所facilitiesの無償提供を基本とし、mailingserviceの類いは子会社の有償提供との申し出が寄せられました。

OB側としては、会設立実現への楽ではない道のりを予感しつつも渡りに舟、今しかなかりうと、その第一歩を踏み出した次第です。今年2月初旬のことです。

言う迄も無くこの種の会は人で成り立つ訳で最初の課題は一体何人のOBが参加して呉れるだろうかと云う事です。小さくても始めてみて徐々にでも増やすことを考えれば良いとの意見もありましたが、矢張り最初から出来る丈洩れなく最大限のOBの皆さんに会設立の趣旨を徹底し参加を呼び掛けるべしと3月にアンケートの実施となった訳です。

旧長月会名簿、その後の退職者動静把握、小単位OB会名簿、等々に依る掘起こし作業に依り約1,400名の首都圏在住者のmailinglistを作成しましたが、これには双日(株)人事総務部の助力と当時世話人だった西本定義氏他のIT力が大活躍しました。

アンケートの結果は約1,000人の回答者が賛意を示され、その中約750人が会への参加意向を示されると云うencouragingなものでした。

私共としては、この750人の方々を潜在的会員候補と考え、世話人会全員で参加の確認と勧誘を続けて参

り、9月30日現在の会費納入会員数は570名に達しました。

この過程で名簿の整備が常に重要で、その任務は栗田久彌氏が担当して呉れました。

他方自主運営の規範となる規約、事務所使用規則等に就いては大山弘雄氏、会計規則、予算、事業計画に就いては橋本春彦氏が中心となり、前後6回に亘る世話人会の会議での侃々諤々の議論を経て、成立させております。

7月13日の設立総会は、高木亨一氏の周到な設営、会自作の名札、立札、10名のボランティア受付の助けを借り混乱なく開催され、最長老濱田大先輩、双日(株)土橋社長、石原常務他来賓も含め約230人が参列され、新しいニチメン東京社友会の設立を祝った次第です。

会の事業計画の重要事項たる会報の作成には長谷川洋氏が、ホームページ関連は会員ボランティアの協力も得て栗田久彌・倉持次雄両氏が担当。

慶弔関係は世話人が得た情報を西村照男氏が集中して必要な処理に務める事になっております。

会としては自主運営のヨチヨチ歩きを手探りで始めた許りですが、世話人会の11名のメンバー一同（氏名連絡先別掲）は、会長、副会長を支え、監事の御指導のもと会員の皆様の役に立つニチメン東京社友会に育って行く様、縁の下の力持ち役を勤めて参る所存ですので、新会員勧誘も含め今後とも宜敷く御協力賜るようお願い申し上げます。

以 上

『社友会総会に出席して』

濱 田 雄 三

06年7月13日、如水会館でのニチメン東京社友会創立総会が盛大に開かれました事、大慶の至りに存じます。河西氏、丸山氏、岩田氏、其の他多数の世話役の方々の尽力のおかげと存じます。

其の席で河西氏より、ニチメンの歴史でも話してほしい、との事でしたが、割愛させて頂き、余計な事をしゃべってしまいました。

このページをお借りして小生の軍隊時代のニチメンとの関係を少し書かせて貰って、御参考に供したい。

小生昭和14年春日本綿花に入社（社長は南郷三郎）、15年4月に召集をうけ入営、陸軍計理部幹部候補生となり、東京の経理学校で半年間教育をうけ、16年8月支那總軍經理部衣糧科勤務を命ぜられました。陸軍主計少尉でした。終戦まで南京在勤でした。

其の間、業務連絡の為、北京、天津、済南、漢口、上海、蘇州等に出張。その都度、日本綿花（日信洋行）支店の方々にも大変歓待されました。

当時、北京には正村氏、天津には初め、難波支店長、後、岡島元社長、小生と同期の奈良氏、済南には難波支店長、漢口には豊田元常務、小坂氏、大辻氏、上海には田中元常務（支店長）、山本英雄元常務、温品氏、中西氏、蘇州には今川氏がおられ、親しく御教示を受けました。

昭和14年頃の日綿は400人位の社員数で半数以上は海外勤務（北米、欧州、中米、アフリカ、インド、東南アジア各地）で綿花、綿製品、人絹、米、雑穀等の輸出入、第三国貿易が主流だった由。海外駐在期間一期5 / 6年、親の死目にも会うのは難しい時代で、長男の採用はさけておった由。時節柄、中国（支那）、満州、ビルマ等に重点が置かれていた様です。

軍部による在支那の商社の評価は、日本綿花は誠実で信用大だったとの事。物産は特に尊大で偉らぶっていると言われて、評判は案外だった様です。従って、日綿が中支（漢口方面、上海方面）や北支に商売上のチャンスを与えて呉れたと思われる点が多かった気がします。

小生、約6年間の總軍勤務（被服関係全般の需給計画の立案と実施）のおかげで、日綿幹部の大陸間の交通（航空、汽車、船舶）に対して便宜をさせて頂くこと位が日綿に対する愛情の表であったのかも知れません。岡島さんの航空券の世話とか、小沢さんの漢口行きの船の切符の世話とか。

潮崎社長（当時）一行の北京から上海への視察旅行の途中、南京に立寄られ当時の正金銀行支店長との会席の席に小生も日綿南京支店長と共に招かれ、世界情勢について教示をうけた事もありました（南京の日綿は昭和15年開設、岸本、東川、谷野氏がマネージャだった）。

總軍勤務の三笠宮（当時若杉少佐参謀といった）殿下の御帰国に際し、日綿上海支店長の中西さんに、おみやげ用として、黒緇一反（妃殿下用）及び白たび100足ほどを準備して頂いた事もあった。

19年頃の漢口支店長の山本（元常務）氏と、当時の漢口軍經理部長の小田部中佐（主計、小生の南京時代の上司）と親しくして頂いた事も日綿にプラスしていたと思う。

小生が南京總軍赴任の一年前まで豊田秀尾氏（元常務）が数年間衣糧課に勤務され、大変優秀な将校だった。さすが日綿社員だなといわれていた由。

その栄誉を小生が頂いたという次第。先輩に感謝しています。

陸軍の支那大陸進出後、軍票価値の維持の為、軍票交換用物資の輸出が各商社で行われており、日綿は人絹関係商社となり、大野健蔵氏（元常務）が東京で陸軍省に日参。その熱心さは高く評価された由。

その相手が今村主計少佐であって、その今村少佐が南京に赴任、小生の上司となり、そんな事から今村氏には日綿に大変好感をもってもらったと思われる。

以上日綿が支那に於て誠実な商内を続けていた為に変に大い評価を得ていた事は確かであった。

戦後の日綿本社綿糸部時代、ジャカルタ時代、化工本部長時代等に関しては機会があればと思っています。尚、上海の在華紡績幹部の知遇を得た事、後々プラスになった。

（以 上）

ニチメン東京社友会設立総会・懇親会開催

長 谷 川 洋

ニチメンが双日株式会社への発展的変容を遂げる過程に於いて我等のOB会組織の長月会は諸般の事情より解散となったことは記憶に新しいところであります。

霧散したOBは夫々の出身部門別あるいは海外駐在戦友会、同期会、同好会などの組織を通じて旧交を温めることは続いておりました。

然しながら全体のOB会がないのは如何にも寂しく、長月会復活の声は澎湃として起こって来ました。

幸い双日(株)のご高配により、OBルームの提供、OBへのアプローチに当たり多大のご協力を得て、全OBへのアンケートを送り、なんと700名余の賛同を得て、新社友会設立の端緒につく事が出来た。

新しいOB会は、過去の長月会とはコンセプトを異にして、「会社時代のヒエラルキーを極力廃し、卒業したら皆同じ」の考えで、楽しいOB会を志向致します。

各部門より推挙されたボランティアOBにより2006年2月より数次に亘る準備会を経て、

遂に7月13日、如水会館において設立総会・懇親会を開くに至ったことは、ひとえに、ご賛同頂きご出席下さった会員の皆様のお陰であります。

当日の出席OB数234名。懐かしい顔、顔が彼方此方で人の輪を作って再会を喜んでいました。

第一部総会では、倉又代表世話人による議事進行で、先ず河西会長御挨拶、その後会則案、役員人事、本年度事業計画案の承認を得て、役員紹介、その他、連絡事項の報告の後、ご来賓の双日(株)土橋社長のご挨拶を頂いた。

第二部懇親会は、長谷川世話人の司会で、冒頭、OB最長老の濱田雄三さんの名演説をお願いした。

次に、本会設立に何かとご支援頂いた双日・石原常務取締役にご挨拶を頂き、ここでやっと乾杯に移る。

丸山修作さんに乾杯の音頭をとっていただき、久々にニチメンOBここに集うの感激を味わいました。

それからは如水会館（東京會館による）の美味しい料理で美酒を味わい、旧交を温め、それぞれ内地で、また海外での、楽しかったこと苦労したこともすべて追憶の彼方で、今は元気で、こうして会えたことを共に喜び合いました。

お開きの時間が来ても中々去りやらぬグループが彼方此方に居られましたが、来年の再会を誓って家路か、二次会に夫々行かれました。

(以 上)

[追 記]

総会・懇親会当日、特にボランティアで受付業務を手伝って頂いた下記の方々に感謝の意をこめて茲に記します。

幾島 清・岡田 茂・沖田 隆彦・鎌田 亮三・倉持 次雄・小西 重勝・高瀬 允宏
塚本 幸雄・名島憲一郎・庭野 松三・羽中田鉄也・埴生 栄勇・福本 匡純・村尾 毅
村澤 醇治・水取 喜六・安武 国章・与 儀治・吉木 健・渡辺耕一郎

(敬称略)

ニチメン東京化工OB会

幹事 栗 田 久 彌

＜生い立ちと現状＞

平成2年春に化工本部OB長老有志が、今後のOBと現役間の円滑な関係保持とOB間相互の懇親の機会創出を目的として本会の結成を発議され、周到な諸準備を経て同年秋に第1回懇親会を鉄鋼会館8階レストランを借り切って開催しました。

爾後ニチメンが港区芝に本社を移転する迄の間は上記鉄鋼会館で、移転後は本社社員食堂で、又同食堂閉鎖後は通い慣れたニチメンに近い鉄鋼会館が昔を回顧するに良いのではなかろうかという事で、再び鉄鋼会館に会場を戻し毎年秋に開催、本年第16回目の懇親会を開催するに至りました。

発会当初は、会員資格に化工本部在籍期間・役職等々の基準を設けた関係もあって、登録会員数は100名にも満たないものでしたが、60名を上回るOBと時間的に出席可能な現役役員・部長等々、常に総勢70名を越す参加者を得て、皆和気藹々昔を回顧し又ニチメンの現状に耳を傾け侃々諤々、楽しい一夜を過ごす事の出来る会に成長しました。

その後年を追う毎に会員数も順調に増加の一途を辿って来ましたが、ニチメンが双日として再出発した事で、新たな化工本部出身OBは生まれて来なくなる事、更には、当初から参加されている会員の高齢化等の事情も相俟って、当初設けた入会資格は現状に即さなくなりつつあるのでこれを廃し、新たに「かつて東京化工本部に在職し且つ入会を希望されるニチメンOBであれば誰でも入会可」と入会基準を変更しました。

その結果、現登録会員数は210余名に及ぶ大所帯に膨張しましたが、退職したとは言え皆さん何かに付けて「おいそが氏」が多く、毎年60～70人程度の規模での懇親会に略定着するに至っています。

また、一昨年度即ち第14回懇親会の席上で、「次年度からの懇親会は予め取り決めた日に開催して欲しい」との要望が為され、毎年10月の第3金曜日に開催することに衆議一決されました。

会長は、初代は高木元取締役本部長、その後浜田雄三元取締役本部長と続き、現在は島崎京一元専務取締役本部長が勤めて居られます。

＜本年度（第16回）懇親会＞

本年度懇親会は、10月20日（金）18時より鉄鋼会館7階宴会場で、OB並びに双日現役社員を含む総勢56名と例年に比べやや少な目の参加人数でしたが、盛大且つ華やかに行なわれましたが、毎年ダンディーなお姿で参加される浜田雄三元会長が、軽度の手術ではありましたが、手術直後と言う事情で欠席されました。まさに画竜点睛を欠く感があり、幹事としては心寂しい次第でした。

今回の参加者が少なめになった主因は、高齢化に依る夜間外出を慎む方々が少しずつ増えてきた事に加え、海外出張その他業務日程の関係等々で双日役員や常連OBの出席が叶わなかった事等の事情に依るもので、来年度は通常に復すものと期待しています。

〔幹事連絡先〕

合成樹脂関係：吉木健 E-mail：yoshiki@fb3.so-net.ne.jp

化学品関係：栗田久彌 E-mail：kkkj-tsukiji@w4.dion.ne.jp

ニチメン機友会(旧ニチメンプラントOB会)

高 木 亨 一

1月27日(於;銀座高松)第一回目のプラントOB会が開催され、105名の参加者を迎え大盛況でありました。その席上、高齢者の方々より、昼間の開催の要望が出ておりまして、今回は10月16日八芳園にて午餐会開催といたしました。昼間開催の為、会員の大多数を占める若手現役組の参加が期待出来ないのも、参加者数の減少が危惧されたが、なんと平均年齢70歳余のOB53名という多数の御参加となりました。

大阪からも野村さん始め4名、名古屋から三品さん、双日から常任監査役の岡崎さんが参加され、会の名称も、去る7月に発足した、ニチメン東京社友会に順じニチメン機友会と改称、プラント本部以外特に旧電気海外建設部より6名の参加と、機械部門全体の組織となる日も近いこと痛感しました。

本OB会の特徴は;

- 1) 当時仕事上で格別のお世話になった職能部門、国内外店、他営業本部の方をゲスト会員として迎える事。
第一回目は、18名、今回は20名が参加
- 2) 会社時代の、ヒエラルキーを排して、卒業したら皆、平等と、お互いさん付けで呼び合う事。

野村さん、丸山さん、宮本さんが率先して実行され、全員に徹底してます。

良きニチメン時代に活躍されておられたベテランの方たちが、会場に向かう階段を不安げに俯きかげんに昇って来られ、目の前に「ニチメン」の懐かしい活字と笑顔で迎えてくれた懐かしい顔ぶれに会ったとたん、一瞬の内に、昔の雰囲気に戻られ、意気揚々と会場の中に入って行かれた。

総会も倉又代表幹事により宮本会長健康上の理由で辞任に伴う会長人事、会の名称変更が可決、後任会長上條さん82歳のご挨拶の後、懇親会に移行、乾杯の音頭の丸山さん殆ど80歳、続く野村さんの「80歳になりました。」で始まったご挨拶も、皆さんとてもお歳には見えない張りのある御声と、お元気なお姿に触れ、我々70前後のOBは大いに鼓舞され、元気づけられました。

来年80歳の岩田さんによる中締めの後、別れを惜しみつつ、来年の再会を約し閉幕。三々五々帰途に。

因みに、会員数232名(ここまでは、プラント本部が対象)、
正会員167名短期間でもプラント本部(今後は機械部門)に勤務したもの
準会員31名引き続き双日に勤務し入会を希望するもの
ゲスト会員29名財務、管理、業務等

機械部門出身の方や現役時代機械部門に協力したと思われる方で、入会ご希望の方はご連絡下さい。

(高木亨一)

Fax/Tel 046-872-5276

Email takagi. k@d6. dion. ne. jp

ニチメンチームズ会

松 田 實

ロンドンを貫流するチームズ川に因んだこの会にふさわしいのか、ふさわしくないのか、いや、“霧のロンドン”はもう昔語り、秋晴れの気持ちいい一タ、いつもの銀座7丁目の「高松」に集ったのは。(順不同敬称略)

新崎 盛晨、漆崎 隆司、大山 宣男、大和田 忍、岡島 岩男、沖本 達也、雄谷 芳夫、
吉川洋三(幹事)、櫻井 潤一、須藤 忠昭、関根 潤治、大工原正徳、高木 恒久、
田尻 真啓、田中 長典、田畑 実、中谷 宣英、中谷 勝、中西 常雄、蓮沼 恒郎、
古澤 陽一(幹事)、前田 征雄、松田實(会長)、村井 靖武、森田 精市、
吉本 邦晴、渡辺 重幸、古川 熙、(この内雄谷、田尻両氏は奥様同伴)

河西郁夫氏(67～71、79～82年)の声で始まったミセスを含めた有志の集まりが年一度のチームズ会に発展、これが第八回。現在名簿上会員は93名。駐在暦は1950年代のロンドン店第一世代から2000年代の若手(?)の諸兄まで幅広く半世紀に亘る戦後ニチメン・ロンドン店の歴史そのものと言える。

はじめに、今年から歴代会長の河西郁夫氏、河西良治氏(57～59、85～86、92～95年)より受継いだ松田(80～84年)からこの夏再訪した好況とテロの脅威下の二面を見せるロンドン体験にも触れた挨拶の後、これまで幾度か草創期のお話を伺った長老の雄谷芳夫氏(59～67、77～79年)に今回は乾杯をリードしていただき懇談へ。シティーの金融・財務、商品・海運市場を背景とした拠点店で、欧州総支配人も常駐する大店にしては小ぶりの陣容だったためか駐在期間のずれ、世代の開きを越えた強い一体感を共有できる。

歓談途中、久しぶり参加の沖本氏、蓮沼氏から近況を、求められての経営アドバイスで東京にも出てくる田中氏、オリックスのゴルフ場展開全般にたずさわって奔走する吉本氏からは引き続き第一線での活動のさまを、また、退職後大正大学卒、現在慶応大学文学部三年生近く大学院へと一貫して仏教を主題に東洋史に知的探求を進める岡島氏の異色のキャリアを聞く。そして、漆崎氏からは日本貿易会、商社各社もスポンサーとなっているNPO国際社会貢献センターでの活動と、商社OBも多くスキルを生かした活動ができるので是非参加をという呼びかけをいただいた。

こうした退職後も「動」の日々を送られる諸兄のほか、未だ現役で活躍されている諸兄も多いが、次回は悠々自適の「静」の世界に身を置かれている諸兄の話もと思う。ガーデニング、バードウォッチング、ウォーキング等など、英国紳士の夢を体現されている人も少なくないのではないかと思うのだが。

最後に昨年までの八年間幹事でお世話願った田尻真啓氏(65～69、74～79年)に一本締めで締めて頂く。

事務連絡として新規発足のニチメン東京社友会への加入案内および次回以降の開催時期について意見を求めた結果、来年も今回同様10月での再会を約して散会した。

今回は都合でたまたま不参加だったがほぼ定連の方々はこの通り。(敬称略)

池田 照幸、泉 伸夫、大建雄志郎、大村 善勇、小川宇士雄、河西 郁夫、笠井 公雄、
久保田雅樹、国領 和彦、作部屋義彦、佐藤 三朗、佐藤 秀隆、佐藤 守男、佐竹 丈夫、
島村 健雄、関口比左志、並木 勝詮、庭野 松三、野中 忠雄、久武 雅志、廣岡 幹雄、
秀直 正彦、本田 務、諸橋 良吉、山田 博一。

(以上)

ニチメン大33会 (昭和33年入社有志の会)

鎌 田 亮 三

本会の濫觴を尋ねれば、遠く昭和33年大阪本社入社組、それも日綿宝塚独身寮寮生仲間数人である。
(なお、小生は寮生の本チャンではない。モグリであり、準寮生と誰かが名付けてくれた。)

やがて彼らの殆んどが東京本社に移動するにつれ、自然に類は友を呼び、会合を持つにいたり東京組同期生に声を掛けて、33会として拡大して行き、今では20名余のメンバーとなる。

昭和33年組は、昭和30年代末には、海外駐在員として、香港、ラングーン、バンコク、カルカッタ、ニューデリー、カラチ、カイロ、パリ、ハンブルグ、ヨーテボリ、カルツーム、ロンドン、ニューヨーク、シカゴ、と同時期に、数珠繋ぎに33会の輪が出来たものである。

年2回の大33会、最近は9月15日、丸の内ポールスターの“まほろば”にて開催。

出席メンバーは：

阿賀 信夫、岩下 恒則、因幡 忠顕、大谷毅丈夫、鎌田 亮三、栗田 久彌、倉又 則夫、
杉本 佳久、長谷川 洋、埴生 栄勇、廣田 孝夫、牧 洋生、増山 信夫
であった。

猶、当日残念ながら不参加のメンバーは、下記の諸兄。

大場 禎治、菊地 省三、坂井 啓二、田村 陽一、中原 正紀、西田 昇、堀之内 敬
花崎 俊雄、村上 欣也

皆、年齢には勝てず、色々手術をしたり、一病息災どころか、数々の病気を抱えている者多く、これから如何に生き延びて行くかが最重要課題である。

然し、出席できる人は概ね元気であるを見ると、元気を保つためにはまず出席することとすることをおすすめる。

大33会に飽き足らず、ミニ33会、ミニミニ33会も、盛んである。
2007年は、日綿入社50年目の記念すべき年である。

LONG LIVE 33KAI である。

以 上

平成18年度 ニチメン木材ネシア会

今回の幹事 奥 村 睦 夫

下記要領で17名が集いました。

① 日時：平成18年9月3日（土）～4日（日）

3日夜は木曾御岳山麓の「木曾温泉ホテル」にて宴会。

4日はゴルフ組、観光組に別れて行動→流れ解散。

② 参加者（敬称略、ABC順）：

・ゴルフ組（木曾御岳カントリークラブ）：

鎌倉 幸一、川端勝四郎、北川 嘉雄、稲垣 基直、松本 理則、三尾川常松、
森田 忠利、村上 正美、西田八洲男、岡村 誠二、鈴木 松男、脇田 武志

・観光組（開田高原乗馬クラブ、赤沢自然休養林ほか）

大山 弘雄、五十川暉夫、奥村 睦夫、穴戸 由卓（在インドネシア）

宴会のみ：

中川 勝弘

③ メンバー：

70～80年代にインドネシア各地に駐在、森林開発会社勤務も含め、南洋材原木輸入に携わった方々（ニチメン社員、得意先会社からの出向者など）で、今回は関西、中京、関東、インドネシアからの参加。

④ 3日（土）の宴会：

古き良き時代の現地インドネシアの昔話に花が咲き、忘れかけたネシア語も飛び交い、約1年ぶり会合（中には数十年ぶりの方もおられた）でもあり、平均年齢の割には酒量がかなりのものでした。

ちなみに、毎年一回、各メンバー住まいの真ん中あたりに集し、互いの健康を確かめ、酒を飲み、おしゃべりし、ゴルフをしようとのことで集まっております。

⑤ 今回参加者以外のメンバー：

ニチメン出身（現役も含め）：

青木 浩、市村 秀孝、大西 憲二、太田 昌秀、柿木 豊、亀井 彬、北大路康信、松原 正治、小川 忠彰、竹内 郁夫、角田 弘之、白石 哲也、山守 興治、若原 哲夫、の面々

→合掌：有賀 正和、高島 英久、水野 順二、大崎 靖也、梶浦 謙晴、

得意先会社（木材問屋、合板製造、製材会社など）からの出向者たち：10名

以 上

NSK(ニチメン総合建材)OB会について

杉 野 智 彦

第3回OB会を下記の様に開催しました。

日 時：平成18年5月14日（日）・15日（月）

14日ホテルコンコルド浜松にて懇親夕食会

15日浜松C. C. にて懇親ゴルフ会

参加者：稲垣 基直、大久保海生、岡村 誠二、吉野 昭一、折口 鞠負、村澤 醇治、堀井 虎雄、小島 紀彦、小田 有久、西田八洲男、青井 勝、大塚 雅康、杉野 智彦 以上13名

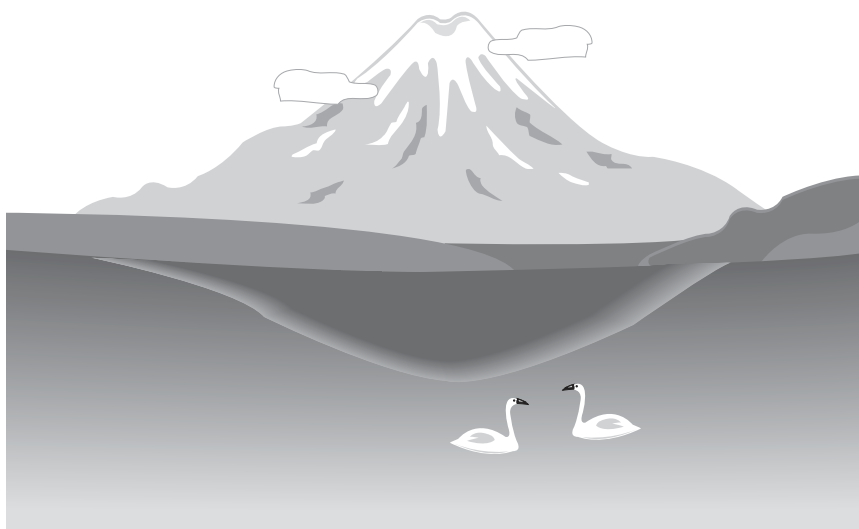
メンバーは旧ニチメンの社員でNSKのOB。

NSKは1982年にニチメン木材本部の建材商内を主体に設立。

その後日岩の建材と合併し「サン建材」になり、今年10月からは「双日建材」に発展しています。

ニチメンからNSKに派遣・転籍していった人も定年で退社した人が増えてきたので、OB会をしゴルフでもしようとの声が出、3年前から始まりました。

年1回浜松で開催しています。



食料OB会ニュース

倉 持 次 雄

当会は、鈴木太一さん（故人）、蜷川親秀さん、鈴木明さん、三人の音頭で発足した。

第1回会合は1992年4月3日、東名阪会員総数95名の内、出席者は48名であった。

初めから会則なし会長職なし年会費なしで出発、あるのは世話人会と事務局だけである。

要は、「ニチメン社員で世界の食料の仕事にたずさわった」という一点を絆とする者たちの、家族的な集団を目指して、今日まで来ている。

近年では、毎年4月の総会が定例化しており、会場はおおむね如水会館で行なっている。

ただし、第四回（96年）は、山下公園係留の「氷川丸」船上レストラン・オブザベーションルームで行なった。氷川丸は戦後初めてアメリカ米を運んだNYKの貨客船である。これに上乗りして来た鈴木太一さん、阿多広太郎さん達の思い出話で会は大いに盛り上がった。

なお、この回から女性の参加が始まり、今年4月現在の会員数は、男性118名、女性34名、総計152名となっている。この内、戦前入社の上の長老は、山口良孝さん（昭14）、上述の阿多さん（昭16）、松浦昌幸さん（昭17）の、お三方である。

★今年度の主な行事：

- 第12回総会：4月8日（土）於如水会館、参加総数60名。

招待者：双日・現役組——北川幹雄執行役員・畜産加工食品本部長

山口一郎食料部食品専門部長

- 故・江花輝君を偲ぶ会：8月7日（月）於如水会館、参加総数23名。

来賓：江花剛さん（故人の長男）

輝さんは今年に入ってから胃癌が発覚、早ばやと6月7日に旅立ってしまった。

豪快にして繊細、誰からも愛されたゴルフ大好きな好漢、あらためてご冥福を祈る。

- 世話人会（12名）は、必要に応じ、適時開いている。

★ 世話人代表と事務局の推移（敬称略）：

世話人代表——（第2回—4）堀江善一・松田實、（5—9）幾島清・坂本晤、（10—12）庭野松三・江花輝、（13—）庭野松三・池田照幸。

事務局——（第1回）蜷川親秀、（2—3）松田實、（4—6）高松宗信、（7—11）佐藤武宣、（12—）小野宗一。

★ 来年度年次総会の予告：

07年4月21日（土）場所如水会館のレストラン「ジュピター」

— 以 上 —

追記：

悲しいお知らせです。

上述長老のお一人、松浦昌幸さんが11月21日朝、お亡くなりになりました。

死因は心筋梗塞、享年86歳。

ご遺言に基き、ご葬儀はご親族内々で済まされた由です。

謹んで、心からご冥福をお祈り致します。

なお、食料OB会として12月1日、蜷川・幾島・坂本のお三人で松浦家弔問に伺いました。 以 上

長月棋楽会(横浜宇宙棋院の集い)

渋谷 義

われわれ長月棋楽会は、もう10年も前から、毎週月曜日、横浜宇宙棋院に集まり腕を競っています。

会員数は約40名。常時参加は10名余。20名以上集まった時はA、Bの2クラスに分けて対戦し、A、B夫々に入賞1、2、3位を決めています。

主たる参加者は、山口良孝、山口富治、西尾敬一、北村俊夫、松村昭太郎の大先輩、ほか吉田孝生、都築基夫、笠井公雄、杉本佳久、西田昇、宮本正博、田所忠彦の皆さん。

年二回の大会(熱海サニーハイツで開催)には、三宅葉さんもご参加。

12月4日は、囲碁終了後、2006忘年会を横浜駅西口『権太』にて開催。

*横浜宇宙棋院；横浜駅西口・東洋信託ビル8F、Tel. 045-323-1515

*幹 事：渋谷 義 携帯電話090-9232-7700
E-Mail: dshibuya-yhama@ezweb.ne.jp

*会 費：@2,000円(商品代、通信費等)

*棋院入場料：各自支払い

ザル碁の集り

文：高尾 勝

ニチメン京橋ビルの地下食堂で、勤務終了後に時折ザル碁と放談をしていた仲間で二つのグループを作り夫々毎月1回会合を楽しんでおります。

参加者の居住地が南北で離れていること、月2回の会合OKの方も多いので下記のように二つのグループになった次第です。

「伊藤安雄、小西重勝、鈴木松男、田所忠彦、高尾勝、村上泰生」一宇宙棋院組

「小西重勝、田所忠彦、高尾勝、南部捷郎、村上泰生、水取喜六」一学士会館組

宇宙棋院組は横浜駅前の碁会所「宇宙棋院」に毎月第3水曜日13:00に集り囲碁夕食会、学士会館組は昼食囲碁会で会合の都度次回開催日を決めます。

近くに住む村上・高尾の二人が7、8年前に始めたのが発端で、元の仲間が加わって定期的なものになり、知的会話(?)が社会との断絶防止とボケ防止に役立っているようです。

(文中敬称略)

囲碁部のご紹介

幹事：榎 山、
双日オートモービル勤務

双日（元ニチメン）囲碁部は、毎月一回第3土曜日に定例会を開催し、部員による交流戦（点数制）を楽しんでいます。

また、年2回（5月、10月）は軽井沢などで合宿を行っています。

これは、早朝から深夜まで囲碁漬け（食べる時と寝る時以外は“囲碁” only）です。

定例会の会場ですが、今年の夏から双日の東館17階にある“ニチメン社友会”の部屋が利用できるようになりました。

ニチメン時代は、夕方の食堂を利用して、食堂がなくなると“長月会”の部屋を利用して、また、“長月会”の部屋がなくなってからは日本棋院の八重洲囲碁センターを利用して毎月一回の定例会を開催してきました。

定例会では長い間、日本棋院の叶井五段に指導して頂いていましたが、今は卒業して橋本アマ七段を中心に“同好会”的に活動しています。

ニチメン時代には、現役の新入部員の獲得を目指していましたが、最近は、OBの中から同好の士の掘起こしに努めています。

その結果、ニチメン時代よりも部員数が増えているのは嬉しい誤算です。

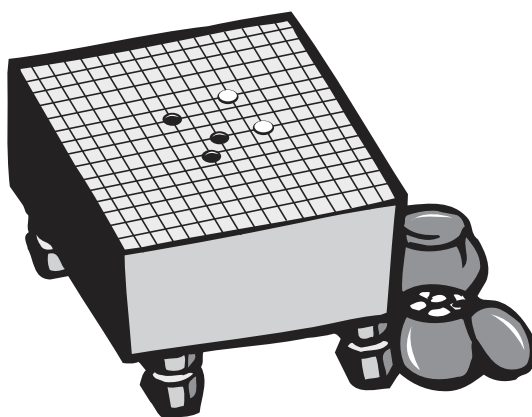
現在、囲碁部には、2－3級から七段クラスまで実力者が幅広く集まっています。

全くの素人でも、始めてみようかなと思う方がいらっしゃいましたら是非遊びに来て下さい。

今流行の「脳力トレーニング」には最適ではないかと思います。

お待ちしております。

以 上



ニチメン湘南会

(湘南会常任世話役)

吉 田 孝 生 TakaoYoshida

故安藤幸男元副社長の発案でスタートしたゴルフコンペの会で、スタート時点では、機械本部関係に在職する愛好者がメンバーであったが、現在は、全員OBで、所属部門の区別は無いが、会の名前どおり、神奈川県方面でのゴルフ場を選んでいるので、参加者は神奈川県在住が多い。

現在の参加登録メンバーは31名で、運用の為の取り決め事項に基づき、年3回のゴルフ会を開催し、登録メンバー対象に年会費と、参加メンバー対象に参加会費の支払いを受け、入賞賞品の提供と懇親会を行っております。

今回、本年2回目のコンペを（幹事は前回上位入賞者、福本匡純氏、亀田昭氏）9月29日に沼津ゴルフクラブで行い、初秋の上天気の下、20人の参加者が、元気にコンペと懇親会を楽しみました。

参考までに、今回の上位入賞は、大西勇氏、吉田孝生氏（以上2名次回幹事）、橋爪覚氏、野村喜久雄氏、篠塚美郷氏、BBは井田正従氏、でした。

湘南会に参加をご希望の方は、若干の人数の増加は可能と思われますので、（参加人数が非常に多くなると、ゴルフ場の予約を取る作業に問題が起こる）常任世話役に連絡を下さい。

以 上

一木会ゴルフ

北 川 嘉 雄

木材本部関東OBゴルフの集まり（一木会ゴルフ）

各本部OBの方々もゴルフ大好きの人達が多くいくつもの集まりがあるようですが、木材OBの諸兄も例外では無く“一木会ゴルフ”と称し関東OBで春（3 / 4 / 5月）3回秋（9 / 10 / 11月）3回、年間6回のコンペを楽しんでいます。もう7年も続いています。

◎現在参加登録の方々は下記の方々です。毎回3－4組揃います。

伊藤 安雄、今井 明、小田 有久、大久保海生、尾形 安法、川端勝四郎、北川 嘉雄、
小島 紀彦、鈴木 松男、菅野 昌熾、杉野 智彦、曾我 宏司、田畑 実、武田 久憲、
林 光生、廣田雄太郎、前田 征雄、松本 理則、吉野 昭一、脇田 武志

◎この会は優勝者が次回開催コースの選定権を持ちます。

千葉の人に優勝されると、神奈川の端からはるばる習志野まで出かけます。

勿論その反対もあるわけです。既に10コース位結構名門コースをプレーし楽しんでます。

10月は取手国際でやりました。11月はレイボー CC 予定です。

◎平均年齢70歳（？）に近いわりにはみんな好きで熱心で上手ですよ。

10月取手国際ベスグロ78！結構レベル高いでしょう。

以 上

ニチメン東京化工OBゴルフ会]

吉 田 孝 生

本会は、東京化工OB会島崎京一会長の発案で、世話役が化工OB会のゴルフ愛好者に声をかけ、20名の参加者を得て、初回を2002年5月に、静岡県沼津ゴルフクラブで行ったことが始まりです。

その際に参加者より、年2回行うべしとの意向が出て、以後場所を関東西（神奈川県、静岡県等）と関東東（千葉県、茨城県等）で交互に行うこと決定し、2002年より毎年2回のゴルフ会が、いつも20名～24名の参加者により愉快地、特にプレー後の懇親会は、楽しく行われて来ました。（現在の最長老は大野久生氏です。）

今月10月10日、快晴の日和に24名の参加者が、千葉県習志野CC、クイーンコースに集まり、第10回目のゴルフ会を行い、これまた大変楽しい1日でした。

実行幹事（篠塚美郷、竹内可能の両氏＝前回優勝、準優勝）のご努力を多と致します。

今回、5位までの上位入賞者は、

優勝：寺田和夫氏（スコア 88-21=67Net）

以下、島崎京一、斉藤至弘、西田昇、大塚和雄諸氏の順でした。

次回は今回入賞者の発案で、2007年5月22日（火）に、島崎京一会長のメンバーコース静岡県御殿場、富士平原GCで行うことに成りました（1泊付きの経済的ゴルフパック料金もあり）。

今年からは、新しい参加者も数名加わり、現在登録のアクティブメンバー数は32名となりました。年は加わっても、昔の仲間と愉快地過せる、気のおけないゴルフ会ですから、元気な方は参加されることを期待します。

以 上



俳句の会『いろは句会』

宇治田 薫

一、句会の経緯：

当句会は太田昭主宰のお声がかかりで、元(株)ニチメン保険センター及び生命・損害両大手保険会社数社の有志社員を中心に発足し、その後、ジェットロ（現日本貿易振興機構）出身者も加わった。

平成元年（一九八九）一月二十五日に第一回の句会を開催し、素人ばかりの構成である事から、「いろは句会」と命名された。

本年十月十八日開催の句会で第二〇八回を数え、実に十七年余を経過した。

句会は月例会の他、適宜近郊での日帰りや一泊旅行の吟行を実施し、十周年記念には手作りの句集「緑風」を上梓した。

また、会員の入退会もあったが、現在は次の十三名が正会員になっている。

この間、湯田茂雄君が平成六年十一月、梅本實君が同十七年七月、残念乍ら故人となった。（合掌）

一、句会の名称＝「いろは句会」

一、主 宰 者＝太田昭

一、句会例会等＝毎月一回他に適宜吟行

一、最近の句会＝十一月十五日、次回は十二月二十日

一、会 員 氏 名＝太田昭主宰

宇治田 薫・太田 琢也・久保田悦子・笹原 弘・佐藤 秀隆・下川 泰子

須藤 忠昭・塚本 幸雄・福島 有恒・藤野 徳子・吉村 文夫・若月 義和

（アイウエオ順・十三名）

一、会員の発表句＝

- | | |
|-----------------|---------|
| ・過ぎし日々思ふや草の返り花 | （あ き ら） |
| ・備長の熾きに身を反る岩魚かな | （宇治田 薫） |
| ・覗き込む子と睨み合ふ魚籠の鯨 | （太田 琢也） |
| ・ケーナの音吸ひ込まれゆく鰯雲 | （久保田悦子） |
| ・秋雲の影さし安房の千枚田 | （笹原 弘） |
| ・しみ抜きの看板小さし花八つ手 | （佐藤 秀隆） |
| ・野仏の頬を擦るねこじゃらし | （下川 泰子） |
| ・峠茶屋のみ込む程の雲の峰 | （須藤 忠昭） |
| ・蹲踞に漣の立つ秋の風 | （塚本 幸雄） |
| ・初秋の浜辺に残る毀れ椅子 | （福島 有恒） |
| ・街角のジャズライブ聴く十三夜 | （藤野 徳子） |
| ・山嶺は墨絵の如く霞みをり | （吉村 文夫） |
| ・春灯やそこだけ風の膨らみぬ | （若月 義和） |

以 上

三 火 会

牧 洋 生

「三火会」（以下敬称略）は、旧ニチメンの出身部課と旧役職を敢えて問わず、参加諸兄の健康維持と友好／情報交換を最大主眼とし、各自の経済的負担も出来るだけ軽くし、‘皆でゴルフを毎月楽しもう！’という趣旨で組織されたゴルフ会です。

この趣旨の為、ゴルフ場も、さいたま市“ノーザンCC錦ヶ原ゴルフ場”に決め、各自の毎月の予定も判り易くするため毎月定期「第三火曜日」に、ゴルフを開催しております。

このため、「三火会」と名付けましたが、「三火会」は、‘皆さんも気軽に参加下さい！’という意味の「参加」も含め、語呂合わせしてあります。会員の参加／離脱は自由の任意会です。

毎月の参加は、予約人数申し込みの為、事前に参加可否の連絡はして頂きますが、毎月の出欠は、自由です。

「三火会」の始めは、廣田孝夫／三分一克美／中原正紀／牧洋生の4名が、ノーザンCC錦ヶ原ゴルフ場でゴルフを始めたのが発端です。

誰でも会員になりたいければ、申し込んで頂き、開放しています。

常任連絡幹事は、メールを保有する牧が主に広報関係を担当。対ゴルフ場折衝などは、主に、廣田が担当し、互いに助け合って世話役してます。

又、常任書記幹事は、ゴルフには、参加してませんが、三浦甲蔵がやっています。

「参加会」は、上記趣旨で開催しており、所謂、「コンペ」では無い為、会後の表彰式とか、優勝、準優勝など競技の順位付けなどはやっていません。

但し、会の品位を保つ為と自分の当日の実力を反省するための一つの材料として、「新ダブルペリヤ方式」（ダブルスコア以上打ち切りとハンデは、36まで）で、プレー後に各自に当日の成績表配り、自分の結果を見られる様にしています。

登録人数は、段々増えて、今では、23名で（アイウエオ順に、敬称略）

池田 格、入野 英司、勝田 泰司、金城 弘明、倉又 則夫、栗田 久彌、三分一克美、
櫻井 潤一、田中 稔昭、栃木 良雄、中原 正紀、西田 昇、日原 東洋、平井出良彦、
廣田 孝夫、福島 知二、牧 洋生、松浦 淳、水庫 博夫、山本大吉郎、餘野木 茂 に
三浦 甲蔵で、

毎月、4～5組の予約をしてプレーしています。

プレー後の所謂19番ホールの「反省会」も、各自参加自由でやって居り、三浦が、常時、幹事として待機しており、会の運行、決め事を記録して、その場で連絡しています。

9月に、会員の「河口輝夫」氏が亡くなられたのを機に、「三火会」メンバーの敬弔時には、「ニチメン三火ゴルフ会」の名札が入った「生花」を出す事に決めました。

葬儀参加などの慶弔は、各自故人と親しい諸兄が、夫々個人で弔問され、御香典なども、個人で出されることとし、「三火会」としては、特に、上記「生花」以外何もしないです。

「会費」は、年間1,000円でしたが、来年4月より、年間2,000円とし、会員の各種連絡費やゴルフ場との予約などの折衝費、その他に使用に当てます。

それに、「臨時会費」として、当日のプレー参加者より一人当たり200円を徴収し、積み立てる事にしました。

此れは、特に、目的を立てていませんが、臨時の会の催し物の経費の一部やら、表彰などが必要な時の経費に当てる予定です。(臨時会費扱い担当幹事：栗田久彌/倉又則夫)

「会期」は、毎年4月1日から次の年の3月末日までです。

以上で、「三火会」の概要をご紹介しましたが、旧出身部課に拘らない健康維持を目的としたゴルフ主体の会です。

参加者皆で、90歳位までは現役プレーヤーとして元気一杯ゴルフすることを念願としています。

是非、お気軽に申し込み、参加下さい。お待ちしております。

「三火会」幹事：牧洋生（執筆責任者）

PS：：

全くのご参考ですが、11月21日（火）の「三火会」ゴルフ結果は：

グロス順位：入野（90）、山本（92）、西田（96）、櫻井（97）

ネット順位：栗田（74. 8）、日原（75. 2）、平井出（76. 6）、入野（76. 8）
でした。

以 上



2006年11月末ニチメン東京社友会収支報告書

1. 収入の部

	実 績	予 算
①年 会 費	1,719,000円 (573名)	1,500,000円 (500名)
・ 7月13日総会会場支払者(234名、内代理4名)		
234名×3,000円＝	702,000	
・口座振込者		
339名×3,000円＝	1,017,000	
②寄 付 金	447,000	300,000
半林 亨氏	50,000	
土橋 昭夫	50,000	
石原 啓資	50,000	
濱田 雄三	100,000	
亀田 昭	97,000	
匿名条件者	100,000	
③懇親会余剰金	93,800	0
④利 息	95	0
計	2,259,895	1,800,000

2. 支出の部

①総会の開催	323,213	400,000
・ 総会準備費(ロジ)	233,724	
・ 同(名札等)	26,074	
・ 社友会幕一式	43,575	
・ 受付心付	19,000	
・ 振込手数料	840	
②会員名簿の発行		450,000
③ホームページ開設準備	40,680*	100,000
④会員の慶弔		150,000
⑤会報の発行準備		50,000
⑥世話人会運営費用		300,000
⑦事務所の維持運営		20,000
⑧雑 費	10,237*(寄付者謝礼)	10,000
⑨予 備 費		100,000
計	374,130	1,580,000

3. 差引繰越金

1,885,765	220,000
-----------	---------

(注) *振込手数料含む

ニチメン東京社友会 会則

第1条（名称および事務所）

会の名称を「ニチメン東京社友会」（以下、「本会」という）とし、事務所を東京都港区赤坂6-1-20、双日株式会社（東館）内に置く。

第2条（目的）

本会は、会員相互の連絡を密にし、親睦、交友関係の増進を図ることを目的とする。

第3条（事業）

本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 会員とその動静・慶弔等に関する情報の収集・連絡
2. 会報及び会員名簿の発行
3. 事務所の維持、運営
4. その他会長が必要と認めた事項

第4条（双日との協力）

本会は双日株式会社との協力を密にし、同社社業の発展に寄与する連携関係を保つものとする。

第5条（会員）

本会の会員は、（元）ニチメン株式会社に勤務経験があり、総会で議決される年会費を負担する者とする。

第6条（役員）

1. 会の円滑な運営を行うために次の役員を置く。(1)会長1名、(2)副会長1～2名、(3)世話人代表1名、(4)世話人12名内外、(5)監事2名
2. 会長は本会を代表し、会務を統括する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは会長の職務を代行する。世話人代表は世話人会を代表する。世話人代表及び世話人は世話人会を構成し、第3条に掲げる事業の実務を担当する。監事は本会の業務全般の監査を行うとともに、世話人会に出席して意見を述べるができる。
3. 役員は総会で選任し、任期は2年間とする。但し、再任を妨げない。役員に欠員が生じ、補充が必要な場合は、世話人会の協議に基づき会長が補充役員を決定する。
補充により就任した役員の任期は前任者の任期の残存期間とする。

第7条（総会）

1. 会員総会は、毎年1回事業年度終了後3ヶ月以内に、会長が召集する。
2. 総会は会員総数の過半数の出席により成立するものとする。委任状提出者は出席として取り扱う。
3. 総会の議事は、会長または会長の指名した役員が議長となり、出席者の多数決により決定する。
4. 次の事項は上記総会の議題として提出し、その承認を受けるものとする。
 - (1) 役員の選出（任期中に欠員となった役員の補充の場合を除く～前条第3項）
 - (2) 前年度事業報告、収支決算報告及び監査報告
 - (3) 今年度事業計画、収支予算（年会費を含む）
 - (4) 本会則の改訂
 - (5) その他会長が特に必要と認めた事項
5. 会長が必要と認めた場合は臨時総会を招集することができる。尚、定足数、議決方法等は本条第2

項及び第3項に準じるものとする。

第8条（世話人会）

1. 世話人会は必要に応じ世話人代表が招集する。
2. 次の事項は世話人会において決定・執行されるものとする。
 - (1) 第3条に規定する事業及び関連業務に関する実務全般
 - (2) その他事項で会長、世話人代表が必要と認めたもの
3. 世話人会は世話人の過半数（委任状提出者を含む）の出席により成立し、議事は、世話人代表が議長となり、多数決により決定する。

第9条（細則）

1. 会の運営・管理等に関する細則は、必要に応じ、世話人会において定めることができる。
2. 本会則に規定のない事項、会則の解釈について疑義が生じた場合は、世話人会及び監事の意見を聴取の上、会長が最終判断を行う。

第10条（費用の支弁）

本会の運用のための諸費用は、会員の年会費と寄付金等により賄う。尚、中途退会の場合を含め、納入済みの会費は返却しないものとする。

第11条（発効日）

本会則は総会において承認された日に発効する。

2006年度事業計画

（期間：2006年7月13日－2007年6月30日）

主として下記の事業を行う。

	予算額（千円）
1. 総会の開催	400
2. 会員名簿の発行	450
3. 会員の慶弔	150
4. ホームページの開設準備	100
5. 会報の発行準備	50
合 計	1,150

ニチメン東京社友会事務所使用規則

ニチメン東京社友会会員（以下「会員」という）は、国際新赤坂ビル東館17階の双日専用フロア（以下「専用フロア」と言う）にある当会事務所（以下「事務所」という）を使用するに際し、下記事項を遵守しなければならない。

記

1.（事務所を使用する目的）

事務所使用の目的は、会員相互の交友・親睦関係を深めるための会合（例、同好会活動）、当会の役員会、世話人会業務等とし、それ以外の目的のために事務所を使用しないこと。

2.（事務所を使用できる会員）

前項の目的のために事務所を使用できる会員は、原則として、当会の会員名簿に名前を登録された会員ならびにその同伴者とする。

3.（事務所使用に際しての手続き、その他）

(1) 事前予約

事務所の使用を希望する会員は、双日（株）の定めたる窓口責任者を通じて、使用予定人数、使用希望時間、責任者名等を申告し、使用予定の前日までに予約を済ませること。

尚、使用日及び使用時間の制限等については双日グループ所定の館内規則に従うものとする。

(2) IDカード及び事務所キーの利用

① 専用フロアへの入場及び事務所への入室に際しては、事前予約に基づき双日（株）から貸与されるIDカード及び事務所キー（鍵）を利用すること。

② 事務所の使用終了後は速やかに事務所キー及びIDカードを双日（株）に返却すること。但し、双日（株）窓口責任者より別段の事前の許可がある場合にはこの限りではない。

③ IDカードの複製、毀損、改造等の行為を行わないこと。また、本カードを盗難等で紛失した場合は、直ちに、双日（株）窓口責任者に届け出ること。

(3) 事務所使用記録簿への記帳

事務所を使用した者またはその代表者は、備え付けの「事務所使用記録簿」（仮称）に使用日時、使用者名、使用目的等の所定の事項を必ず記帳すること。

(4) その他注意事項

事務所使用に際しては善良なる管理者の態度で行動するものとし、近隣各室との友好・親善関係についても留意すること。

以 上

訃 報

お悔やみ申し上げます。

生前の面影を偲び、衷心よりご冥福をお祈り致します。

氏 名	出身部門	死亡年月	享 年
松 浦 昌 幸 さん*	食料・財務	2006年11月	86歳
千 田 忠 美 さん	業 務	2006年11月	72歳
河 口 輝 夫 さん*	鉄 鋼	2006年 9 月	70歳
河 田 郁 夫 さん*	業 務	2006年 9 月	80歳
仲 谷 勝 さん	財 務	2006年 7 月	60歳
江 花 輝 さん	食料・繊維	2006年 6 月	67歳
満 畠 啓 二 さん	副 社 長	2006年 3 月	89歳

(*印は当会会員)

更新年月：2006年11月

弔事に関する取り扱い細則

ニチメン社友会『会則』第三条（事業）1項の“会員の動静・慶弔の連絡”に関連し弔事の扱いにつき以下の通り定める。

第一条 会員の訃報の連絡は、原則として『会報』および当会“ホームページ”に掲載する。

第二条 会員の訃報に接した場合、
時間的余裕のある場合には、当会の弔意としてニチメン東京社友会名義にて供花する。
訃報を、後刻知った場合には、供花料をご遺族にお届けする。
尚、本件に関する予算は15,000円（税別）とし、弔電は割愛する。

第三条 会員の訃報に接した会員は、遅滞なく最寄りの世話人に連絡すること。
知らせを受けた世話人は、慶弔担当世話人に連絡すると共に、世話人一同に情報を流すこととする。

第四条 訃報の取り扱いについて、ご遺族のご意向で、会員全員に対して出来るだけ知らせて欲しいとの申し出があった場合、当会のE-mailネットワークに載せることが出来る。

平成18年10月1日制定

平成18年12月4日一部改訂

【編集後記】

旧長月会が瓦解し二年有余にして、今日このように新しいOB会が“ニチメン東京社友会”として誕生するとは誰が予想し得たであろうか。

2006年2月8日、双日㈱本社会議室に各部門から推挙されたOB約20名による第一回会議がそもそものスタートである。

此処にいたる双日㈱の一方ならぬご支援・便宜供与によってOB会推進実働部隊たる11名の世話人会は、日夜の作業を重ねてまいりました。

7月に設立総会・懇親会を無事開催、いまホームページも立ち上げ、そして此処に『会報』第一号を発行するに至りました。

偏に双日㈱のご支援、各会員OB・OGのご賛同、ご参加によって新生社友会は第一歩を踏み出しました。

この会報は、PCを保持しない方々にとっては貴重な情報共有の場となることを銘記して、今後、取り組んでいく所存であります。

(長谷川 洋)

ニチメン東京社友会

〒107-8655 東京都港区赤坂6-1-20

双日㈱内 17F

発行人 ; 倉又 則夫 代表世話人

編集責任者 ; 長谷川 洋 世話人

アドバイザー・スタッフ ; 高木 亨一 世話人

倉持 次雄 世話人

印刷所 ; (有) 関内 印刷